

2017年9月25日

フィコサ・インターナショナルS.A.との初の協業開発製品 「電子インナーミラー」を供給開始

パナソニック株式会社 オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社は、スペインの自動車部品・システムサプライヤーであるフィコサ・インターナショナルS.A.（以下、フィコサ社）と初の協業開発製品である「電子インナーミラー」の量産出荷を2017年9月より開始します。

当社は、2015年6月に欧州を中心に幅広い自動車メーカーへの自動車用ミラーの納入実績があるスペインのフィコサ社に出資し協業を開始しました。フィコサ社の持つミラー技術と当社のカメラや液晶の技術を融合させた「電子インナーミラー」が、この度、トヨタ自動車株式会社の純正用品として採用されました。

本製品は、広角レンズを搭載したカメラで後方の広い範囲を映すことができるため、通常のインナーミラーに比べ視野角が広く、またリヤウィンドウの内側に配置したカメラからの映像を表示するため、後席の同乗者がインナーミラーに映り込まず、後方を確認しやすく安心です。

当社は、今後もフィコサ社との協業を一層強化し、協業開発商品の拡大と受注獲得に向けて取組んでいきます。



【お問い合わせ先】

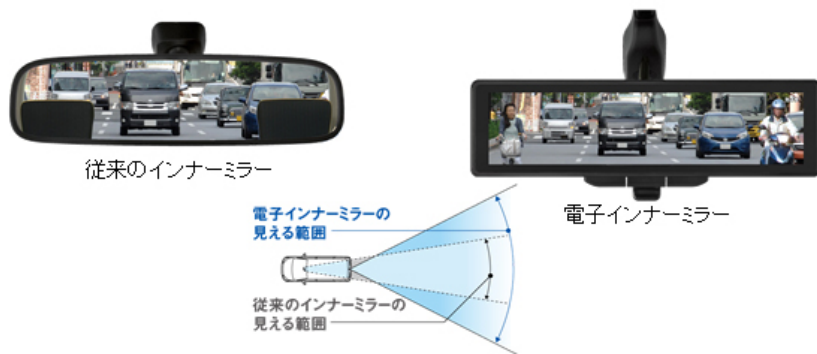
お客様ご相談センター
TEL:フリーダイヤル 0120-50-8729(受付時間 9:00~18:30 365日)

【特長】

1. 広角レンズ搭載のカメラにより、後方の視野が広く視認性が向上

従来のインナーミラーと比べて、後方遠方（水平方向）の広い範囲を映すことができるため、見えにくかった斜め後ろの様子も見やすくなります。

※電子インナーミラーにも死角があります。特に後退のときは直接後方確認が必要です。



2. カメラをリヤウィンドウに配置することで、後席の同乗者等が映り込まず死角を低減

カメラをリヤウィンドウの内側に取り付けることで、後方の死角を低減。従来のインナーミラーのように、同乗者や車内の様子が映り込まないため、後方の視界を遮りません。



3. 高感度カメラ技術により、夜間やトンネル内でもクリアな視界を提供

夜間走行やトンネル内でも見やすい映像になる、高感度カメラを搭載。さらに、ヘッドランプに連動して夜間モードに切り替わり、従来のインナーミラーではまぶしかったヘッドランプも見やすい映像になります。



※画像はイメージのため実際とは異なる場合があります。画像はハメコミ合成です。

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。
商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。